

絵柄 ②



Forest of thin columns with a slight bulge

ほそくて、ふくらんだ柱の群れ

参加作家: 中村竜治(建築家) + 花房紗也香(アーティスト) + 安東陽子(テキスタイルデザイナー)

OPEN FIELD 「ほそくて、ふくらんだ柱の群れ」空間、絵画、テキスタイルを再結合する | 2023年9月19日(火) - 9月29日(金)

会場: オカムラ ガーデンコートショールーム 企画: 五十嵐太郎(建築史家) 主催: 株式会社オカムラ

Forest of thin columns with a slight bulge

ほそくて、ふくらんだ柱の群れ

参加作家: 中村竜治(建築家) + 花房紗也香(アーティスト) + 安東陽子(テキスタイルデザイナー)

OPEN FIELD 「ほそくて、ふくらんだ柱の群れ」空間、絵画、テキスタイルを再結合する | 2023年9月19日(火) - 9月29日(金)

会場: オカムラ ガーデンコートショールーム 企画: 五十嵐太郎(建築史家) 主催: 株式会社オカムラ

okamura

絵柄 ①



Forest of thin columns with a slight bulge

ほそくて、ふくらんだ柱の群れ

参加作家: 中村竜治(建築家) + 花房紗也香(アーティスト) + 安東陽子(テキスタイルデザイナー)

OPEN FIELD 「ほそくて、ふくらんだ柱の群れ」空間、絵画、テキスタイルを再結合する | 2023年9月19日(火) - 9月29日(金)

会場: オカムラ ガーデンコートショールーム 企画: 五十嵐太郎(建築史家) 主催: 株式会社オカムラ

Forest of thin columns with a slight bulge

ほそくて、ふくらんだ柱の群れ

参加作家: 中村竜治(建築家) + 花房紗也香(アーティスト) + 安東陽子(テキスタイルデザイナー)

OPEN FIELD 「ほそくて、ふくらんだ柱の群れ」空間、絵画、テキスタイルを再結合する | 2023年9月19日(火) - 9月29日(金)

会場: オカムラ ガーデンコートショールーム 企画: 五十嵐太郎(建築史家) 主催: 株式会社オカムラ

okamura

絵柄 ③

絵柄 ④





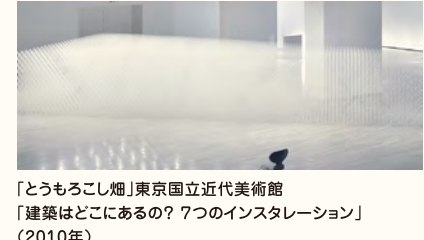
OPEN FIELD  
Forest of thin columns with a slight bulge — recombing space, painting and textiles  
2023年9月19日(火) — 9月29日(金) 10時 — 17時 会場: オカムラ ガーデンコートショールーム ※9月24日(日)は18時〜21時(土・祝)は13:00〜18:00

入場無料 休館日: 9月24日(日) 関連イベントについてはウェブサイト(https://www.okamura.co.jp/corporate/special\_site/event/openfield23/)をご確認ください。  
企画: 五十嵐太郎(建築史家) 主催: 株式会社オカムラ  
会場: 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニ・ガーデンコート3F  
オカムラガーデンコートショールーム (TEL: 03-5276-2001)

オカムラのガーデンコートショールームに、OPEN FIELDという新しい表現の場が誕生する。OPEN FIELDには、あらかじめ想定された形式ではなく、予期されない出会いや出来事が起きる原っぱのようなイメージを重ねあわせた。そこで3名の異なるジャンルのクリエイターに参加してもらい、絵画とデザインをともに体験してもらう風景としての空間をつくることを企画した。もともと、絵画の作品が入るので、当然、壁がつくられるかと思いきや、中村竜治さんからは少しふくらんだ細い柱が林立する空間が提案された。したがって、画家の花房紗也香さんは、本展のための新作を描いた後、柱にその断片的なイメージを足していくというこれまでにない作業を行うが、こういう機会に挑戦してみたいとのこと。すなわち、通常の囲まれた「部屋」における展示ではなくするため、「絵画」も解体される。来場者は、絵の断片が散らばられた森の中を散策するだろう。また安東陽子さんは、これまで空間を仕切る柔らかい壁のようなテキスタイルの作品が多かったが、今回は柱頭にあたる部分を担当し、しかも柱を安定させるという構造の役割を果たす。これは彼女にとって初の試みである。今回のOPEN FIELDでは、空間、テキスタイル、絵画の関係性の組み換えが行われる。それも周囲と切り離された展示空間をつくるのではなく、いつもの部屋に特殊な柱の群れを挿入することで、見慣れた室内の風景を異化させる。一方で建築の歴史を振り返りながら考えると興味深い。例えば、古典主義の円柱は、柱身に膨らみ(エンタス)があって、柱頭が分節されている。また中世の柱は多様な装飾をもっていたり、バロックにおいては絵画と建築が混交するような関係性をもつ。今回の試みは、こうした過去の事例に対する、21世紀的な表現かもしれない。

五十嵐太郎(本展キュレーター)

中村竜治 Ryuji Nakamura 建築家  
1972年、長野県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了後、青木淳建築設計事務所を経て、2004年、中村竜治建築設計事務所を設立。住宅、店舗、公共空間などの設計を全般的に行うほか、家具、展示空間、インスタレーション、舞台美術なども手がける。主な仕事に、「へちま」ヒューストン美術館、サンフランシスコ近代美術館収蔵(2010年、2012年)、「空気のような舞台」東京室内歌劇場オペラ・グラン・マカフル(舞台美術(2009年)、「とうもろこし畑」東京国立近代美術館「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」(2010年)、「JINS京都寺町通」(2016年)、「神戸市役所1号館1階市民ロビー」(2017年)、「Mビル」(GRASSA) (2018年)、「FormGALLERY」(2019年)、「MA nature」(2021年)など。  
著書に「中村竜治」コントロールされた線とされない線」(LIXIL出版、2013年)。  
https://www.rjuinakamura.com/



「とうもろこし畑」東京国立近代美術館「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」(2010年)

花房紗也香 Sayaka Hanafusa アーティスト  
1988年、ロンドン生まれ。2012年、多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。2014年、多摩美術大学大学院修士前期課程修了。2014年、トキョウワンダーサイト平成26年度二国間交流事業プログラムとしてスイス、バーゼルに派遣(3ヵ月)。2019年、公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス)。「内と外」の関係性を室内と室外に置き換え、窓や鏡、画面の中のような「フレーム」を手がかりに絵画作品を描いている。主な展覧会に「自動と構成」(ポーミュージアムアネックス、東京、2021年)、徳展「窓枠を超えて」(奈良現代美術館、岡山、2021年)、徳展「Collecting time」(Usine Kusler、ジュネーブ、2018年)、徳展「ARKO」(大原美術館、岡山、2015年)、「VOCA展 現代絵画の展望」(上野の森美術館、東京、2013年)にて最年少で大賞を受賞。主なパブリックコレクションに第一生命保険会社、大原美術館などがある。  
http://www.suzukisayaka.com/



Inside and outside - sculpture - (2021年)

安東陽子 Yoko Ando テキスタイルデザイナー・コーディネーター  
東京生まれ。武蔵野美術大学短期大学部グラフィックデザイン科卒業。株式会社 布での勤務を経て、2011年、「安東陽子デザイン」設立。多くの建築家が設計する公共施設や個人住宅などにテキスタイルを提供。近年の主な協働作品として「台中国家歌劇院」(伊東豊雄建築設計事務所)、「みんなの森 きらメディアコスモス」(伊東豊雄建築設計事務所)、西武特急L'view (妹島和世建築設計事務所)「京都市京セラ美術館」(青木淳・西澤義夫設計共同)、「南方熊楠記念館」(シーラカンスタンプアンソシエツィCA)、「白井屋ホテル」(藤本壮介建築設計事務所)、「八戸市美術館」(西澤義夫建築事務所・PRINT AND BUILD・森純平)などがある。シアターカンパニー・アリアに衣装担当として参画。名古屋造形大学、多摩美術大学客員教授。  
著書に「安東陽子」テキスタイル・空間・建築」(LIXIL出版、2015年)。



京都市京セラ美術館ファサードのカーテン(2020年) ©Daici Ando

OPEN FIELD 「OPEN FIELD(オープン・フィールド)」は、什器やオフィス家具から内装デザインを含めた建物のトータルな場づくりの実績がある株式会社オカムラが主催する企画展です。建築史家の五十嵐太郎氏(東北大学教授)をキュレーターに迎え、ショールーム内に気取ったアーティストによるインスタレーションを発表します。また、オカムラのデザイナーとの協働や学生が参加できるイベントを実施し、空間デザインの多面的な考察を実験します。

グラフィック・デザイン: 山田悠太郎(centre Inc.)

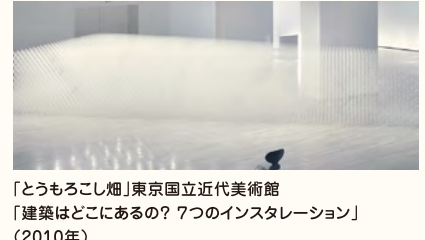
OPEN FIELD  
Forest of thin columns with a slight bulge — recombing space, painting and textiles  
2023年9月19日(火) — 9月29日(金) 10時 — 17時 会場: オカムラ ガーデンコートショールーム ※9月24日(日)は18時〜21時(土・祝)は13:00〜18:00

入場無料 休館日: 9月24日(日) 関連イベントについてはウェブサイト(https://www.okamura.co.jp/corporate/special\_site/event/openfield23/)をご確認ください。  
企画: 五十嵐太郎(建築史家) 主催: 株式会社オカムラ  
会場: 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニ・ガーデンコート3F  
オカムラガーデンコートショールーム (TEL: 03-5276-2001)

オカムラのガーデンコートショールームに、OPEN FIELDという新しい表現の場が誕生する。OPEN FIELDには、あらかじめ想定された形式ではなく、予期されない出会いや出来事が起きる原っぱのようなイメージを重ねあわせた。そこで3名の異なるジャンルのクリエイターに参加してもらい、絵画とデザインをともに体験してもらう風景としての空間をつくることを企画した。もともと、絵画の作品が入るので、当然、壁がつくられるかと思いきや、中村竜治さんからは少しふくらんだ細い柱が林立する空間が提案された。したがって、画家の花房紗也香さんは、本展のための新作を描いた後、柱にその断片的なイメージを足していくというこれまでにない作業を行うが、こういう機会に挑戦してみたいとのこと。すなわち、通常の囲まれた「部屋」における展示ではなくするため、「絵画」も解体される。来場者は、絵の断片が散らばられた森の中を散策するだろう。また安東陽子さんは、これまで空間を仕切る柔らかい壁のようなテキスタイルの作品が多かったが、今回は柱頭にあたる部分を担当し、しかも柱を安定させるという構造の役割を果たす。これは彼女にとって初の試みである。今回のOPEN FIELDでは、空間、テキスタイル、絵画の関係性の組み換えが行われる。それも周囲と切り離された展示空間をつくるのではなく、いつもの部屋に特殊な柱の群れを挿入することで、見慣れた室内の風景を異化させる。一方で建築の歴史を振り返りながら考えると興味深い。例えば、古典主義の円柱は、柱身に膨らみ(エンタス)があって、柱頭が分節されている。また中世の柱は多様な装飾をもっていたり、バロックにおいては絵画と建築が混交するような関係性をもつ。今回の試みは、こうした過去の事例に対する、21世紀的な表現かもしれない。

五十嵐太郎(本展キュレーター)

中村竜治 Ryuji Nakamura 建築家  
1972年、長野県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了後、青木淳建築設計事務所を経て、2004年、中村竜治建築設計事務所を設立。住宅、店舗、公共空間などの設計を全般的に行うほか、家具、展示空間、インスタレーション、舞台美術なども手がける。主な仕事に、「へちま」ヒューストン美術館、サンフランシスコ近代美術館収蔵(2010年、2012年)、「空気のような舞台」東京室内歌劇場オペラ・グラン・マカフル(舞台美術(2009年)、「とうもろこし畑」東京国立近代美術館「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」(2010年)、「JINS京都寺町通」(2016年)、「神戸市役所1号館1階市民ロビー」(2017年)、「Mビル」(GRASSA) (2018年)、「FormGALLERY」(2019年)、「MA nature」(2021年)など。  
著書に「中村竜治」コントロールされた線とされない線」(LIXIL出版、2013年)。  
https://www.rjuinakamura.com/



「とうもろこし畑」東京国立近代美術館「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」(2010年)

花房紗也香 Sayaka Hanafusa アーティスト  
1988年、ロンドン生まれ。2012年、多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。2014年、多摩美術大学大学院修士前期課程修了。2014年、トキョウワンダーサイト平成26年度二国間交流事業プログラムとしてスイス、バーゼルに派遣(3ヵ月)。2019年、公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス)。「内と外」の関係性を室内と室外に置き換え、窓や鏡、画面の中のような「フレーム」を手がかりに絵画作品を描いている。主な展覧会に「自動と構成」(ポーミュージアムアネックス、東京、2021年)、徳展「窓枠を超えて」(奈良現代美術館、岡山、2021年)、徳展「Collecting time」(Usine Kusler、ジュネーブ、2018年)、徳展「ARKO」(大原美術館、岡山、2015年)、「VOCA展 現代絵画の展望」(上野の森美術館、東京、2013年)にて最年少で大賞を受賞。主なパブリックコレクションに第一生命保険会社、大原美術館などがある。  
http://www.suzukisayaka.com/



Inside and outside - sculpture - (2021年)

安東陽子 Yoko Ando テキスタイルデザイナー・コーディネーター  
東京生まれ。武蔵野美術大学短期大学部グラフィックデザイン科卒業。株式会社 布での勤務を経て、2011年、「安東陽子デザイン」設立。多くの建築家が設計する公共施設や個人住宅などにテキスタイルを提供。近年の主な協働作品として「台中国家歌劇院」(伊東豊雄建築設計事務所)、「みんなの森 きらメディアコスモス」(伊東豊雄建築設計事務所)、西武特急L'view (妹島和世建築設計事務所)「京都市京セラ美術館」(青木淳・西澤義夫設計共同)、「南方熊楠記念館」(シーラカンスタンプアンソシエツィCA)、「白井屋ホテル」(藤本壮介建築設計事務所)、「八戸市美術館」(西澤義夫建築事務所・PRINT AND BUILD・森純平)などがある。シアターカンパニー・アリアに衣装担当として参画。名古屋造形大学、多摩美術大学客員教授。  
著書に「安東陽子」テキスタイル・空間・建築」(LIXIL出版、2015年)。



京都市京セラ美術館ファサードのカーテン(2020年) ©Daici Ando

OPEN FIELD 「OPEN FIELD(オープン・フィールド)」は、什器やオフィス家具から内装デザインを含めた建物のトータルな場づくりの実績がある株式会社オカムラが主催する企画展です。建築史家の五十嵐太郎氏(東北大学教授)をキュレーターに迎え、ショールーム内に気取ったアーティストによるインスタレーションを発表します。また、オカムラのデザイナーとの協働や学生が参加できるイベントを実施し、空間デザインの多面的な考察を実験します。

グラフィック・デザイン: 山田悠太郎(centre Inc.)

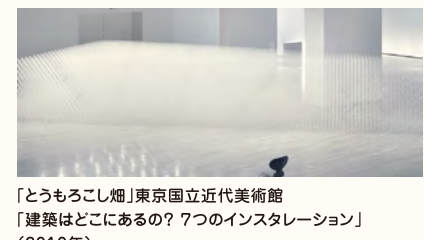
OPEN FIELD  
Forest of thin columns with a slight bulge — recombing space, painting and textiles  
2023年9月19日(火) — 9月29日(金) 10時 — 17時 会場: オカムラ ガーデンコートショールーム ※9月24日(日)は18時〜21時(土・祝)は13:00〜18:00

入場無料 休館日: 9月24日(日) 関連イベントについてはウェブサイト(https://www.okamura.co.jp/corporate/special\_site/event/openfield23/)をご確認ください。  
企画: 五十嵐太郎(建築史家) 主催: 株式会社オカムラ  
会場: 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニ・ガーデンコート3F  
オカムラガーデンコートショールーム (TEL: 03-5276-2001)

オカムラのガーデンコートショールームに、OPEN FIELDという新しい表現の場が誕生する。OPEN FIELDには、あらかじめ想定された形式ではなく、予期されない出会いや出来事が起きる原っぱのようなイメージを重ねあわせた。そこで3名の異なるジャンルのクリエイターに参加してもらい、絵画とデザインをともに体験してもらう風景としての空間をつくることを企画した。もともと、絵画の作品が入るので、当然、壁がつくられるかと思いきや、中村竜治さんからは少しふくらんだ細い柱が林立する空間が提案された。したがって、画家の花房紗也香さんは、本展のための新作を描いた後、柱にその断片的なイメージを足していくというこれまでにない作業を行うが、こういう機会に挑戦してみたいとのこと。すなわち、通常の囲まれた「部屋」における展示ではなくするため、「絵画」も解体される。来場者は、絵の断片が散らばられた森の中を散策するだろう。また安東陽子さんは、これまで空間を仕切る柔らかい壁のようなテキスタイルの作品が多かったが、今回は柱頭にあたる部分を担当し、しかも柱を安定させるという構造の役割を果たす。これは彼女にとって初の試みである。今回のOPEN FIELDでは、空間、テキスタイル、絵画の関係性の組み換えが行われる。それも周囲と切り離された展示空間をつくるのではなく、いつもの部屋に特殊な柱の群れを挿入することで、見慣れた室内の風景を異化させる。一方で建築の歴史を振り返りながら考えると興味深い。例えば、古典主義の円柱は、柱身に膨らみ(エンタス)があって、柱頭が分節されている。また中世の柱は多様な装飾をもっていたり、バロックにおいては絵画と建築が混交するような関係性をもつ。今回の試みは、こうした過去の事例に対する、21世紀的な表現かもしれない。

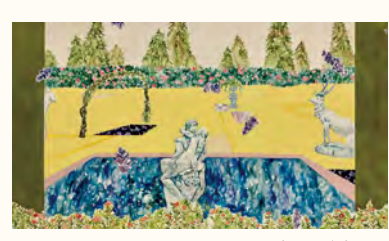
五十嵐太郎(本展キュレーター)

中村竜治 Ryuji Nakamura 建築家  
1972年、長野県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了後、青木淳建築設計事務所を経て、2004年、中村竜治建築設計事務所を設立。住宅、店舗、公共空間などの設計を全般的に行うほか、家具、展示空間、インスタレーション、舞台美術なども手がける。主な仕事に、「へちま」ヒューストン美術館、サンフランシスコ近代美術館収蔵(2010年、2012年)、「空気のような舞台」東京室内歌劇場オペラ・グラン・マカフル(舞台美術(2009年)、「とうもろこし畑」東京国立近代美術館「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」(2010年)、「JINS京都寺町通」(2016年)、「神戸市役所1号館1階市民ロビー」(2017年)、「Mビル」(GRASSA) (2018年)、「FormGALLERY」(2019年)、「MA nature」(2021年)など。  
著書に「中村竜治」コントロールされた線とされない線」(LIXIL出版、2013年)。  
https://www.rjuinakamura.com/



「とうもろこし畑」東京国立近代美術館「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」(2010年)

花房紗也香 Sayaka Hanafusa アーティスト  
1988年、ロンドン生まれ。2012年、多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。2014年、多摩美術大学大学院修士前期課程修了。2014年、トキョウワンダーサイト平成26年度二国間交流事業プログラムとしてスイス、バーゼルに派遣(3ヵ月)。2019年、公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス)。「内と外」の関係性を室内と室外に置き換え、窓や鏡、画面の中のような「フレーム」を手がかりに絵画作品を描いている。主な展覧会に「自動と構成」(ポーミュージアムアネックス、東京、2021年)、徳展「窓枠を超えて」(奈良現代美術館、岡山、2021年)、徳展「Collecting time」(Usine Kusler、ジュネーブ、2018年)、徳展「ARKO」(大原美術館、岡山、2015年)、「VOCA展 現代絵画の展望」(上野の森美術館、東京、2013年)にて最年少で大賞を受賞。主なパブリックコレクションに第一生命保険会社、大原美術館などがある。  
http://www.suzukisayaka.com/



Inside and outside - sculpture - (2021年)

安東陽子 Yoko Ando テキスタイルデザイナー・コーディネーター  
東京生まれ。武蔵野美術大学短期大学部グラフィックデザイン科卒業。株式会社 布での勤務を経て、2011年、「安東陽子デザイン」設立。多くの建築家が設計する公共施設や個人住宅などにテキスタイルを提供。近年の主な協働作品として「台中国家歌劇院」(伊東豊雄建築設計事務所)、「みんなの森 きらメディアコスモス」(伊東豊雄建築設計事務所)、西武特急L'view (妹島和世建築設計事務所)「京都市京セラ美術館」(青木淳・西澤義夫設計共同)、「南方熊楠記念館」(シーラカンスタンプアンソシエツィCA)、「白井屋ホテル」(藤本壮介建築設計事務所)、「八戸市美術館」(西澤義夫建築事務所・PRINT AND BUILD・森純平)などがある。シアターカンパニー・アリアに衣装担当として参画。名古屋造形大学、多摩美術大学客員教授。  
著書に「安東陽子」テキスタイル・空間・建築」(LIXIL出版、2015年)。



京都市京セラ美術館ファサードのカーテン(2020年) ©Daici Ando

OPEN FIELD 「OPEN FIELD(オープン・フィールド)」は、什器やオフィス家具から内装デザインを含めた建物のトータルな場づくりの実績がある株式会社オカムラが主催する企画展です。建築史家の五十嵐太郎氏(東北大学教授)をキュレーターに迎え、ショールーム内に気取ったアーティストによるインスタレーションを発表します。また、オカムラのデザイナーとの協働や学生が参加できるイベントを実施し、空間デザインの多面的な考察を実験します。

グラフィック・デザイン: 山田悠太郎(centre Inc.)

OPEN FIELD  
Forest of thin columns with a slight bulge — recombing space, painting and textiles  
2023年9月19日(火) — 9月29日(金) 10時 — 17時 会場: オカムラ ガーデンコートショールーム ※9月24日(日)は18時〜21時(土・祝)は13:00〜18:00

入場無料 休館日: 9月24日(日) 関連イベントについてはウェブサイト(https://www.okamura.co.jp/corporate/special\_site/event/openfield23/)をご確認ください。  
企画: 五十嵐太郎(建築史家) 主催: 株式会社オカムラ  
会場: 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニ・ガーデンコート3F  
オカムラガーデンコートショールーム (TEL: 03-5276-2001)

オカムラのガーデンコートショールームに、OPEN FIELDという新しい表現の場が誕生する。OPEN FIELDには、あらかじめ想定された形式ではなく、予期されない出会いや出来事が起きる原っぱのようなイメージを重ねあわせた。そこで3名の異なるジャンルのクリエイターに参加してもらい、絵画とデザインをともに体験してもらう風景としての空間をつくることを企画した。もともと、絵画の作品が入るので、当然、壁がつくられるかと思いきや、中村竜治さんからは少しふくらんだ細い柱が林立する空間が提案された。したがって、画家の花房紗也香さんは、本展のための新作を描いた後、柱にその断片的なイメージを足していくというこれまでにない作業を行うが、こういう機会に挑戦してみたいとのこと。すなわち、通常の囲まれた「部屋」における展示ではなくため、「絵画」も解体される。来場者は、絵の断片が散らばられた森の中を散策するだろう。また安東陽子さんは、これまで空間を仕切る柔らかい壁のようなテキスタイルの作品が多かったが、今回は柱頭にあたる部分を担当し、しかも柱を安定させるという構造の役割を果たす。これは彼女にとって初の試みである。今回のOPEN FIELDでは、空間、テキスタイル、絵画の関係性の組み換えが行われる。それも周囲と切り離された展示空間をつくるのではなく、いつもの部屋に特殊な柱の群れを挿入することで、見慣れた室内の風景を異化させる。一方で建築の歴史を振り返りながら考えると興味深い。例えば、古典主義の円柱は、柱身に膨らみ(エンタス)があって、柱頭が分節されている。また中世の柱は多様な装飾をもっていたり、バロックにおいては絵画と建築が混交するような関係性をもつ。今回の試みは、こうした過去の事例に対する、21世紀的な表現かもしれない。

五十嵐太郎(本展キュレーター)

中村竜治 Ryuji Nakamura 建築家  
1972年、長野県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了後、青木淳建築設計事務所を経て、2004年、中村竜治建築設計事務所を設立。住宅、店舗、公共空間などの設計を全般的に行うほか、家具、展示空間、インスタレーション、舞台美術なども手がける。主な仕事に、「へちま」ヒューストン美術館、サンフランシスコ近代美術館収蔵(2010年、2012年)、「空気のような舞台」東京室内歌劇場オペラ・グラン・マカフル(舞台美術(2009年)、「とうもろこし畑」東京国立近代美術館「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」(2010年)、「JINS京都寺町通」(2016年)、「神戸市役所1号館1階市民ロビー」(2017年)、「Mビル」(GRASSA) (2018年)、「FormGALLERY」(2019年)、「MA nature」(2021年)など。  
著書に「中村竜治」コントロールされた線とされない線」(LIXIL出版、2013年)。  
https://www.rjuinakamura.com/



「とうもろこし畑」東京国立近代美術館「建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」(2010年)

花房紗也香 Sayaka Hanafusa アーティスト  
1988年、ロンドン生まれ。2012年、多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。2014年、多摩美術大学大学院修士前期課程修了。2014年、トキョウワンダーサイト平成26年度二国間交流事業プログラムとしてスイス、バーゼルに派遣(3ヵ月)。2019年、公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(フランス)。「内と外」の関係性を室内と室外に置き換え、窓や鏡、画面の中のような「フレーム」を手がかりに絵画作品を描いている。主な展覧会に「自動と構成」(ポーミュージアムアネックス、東京、2021年)、徳展「窓枠を超えて」(奈良現代美術館、岡山、2021年)、徳展「Collecting time」(Usine Kusler、ジュネーブ、2018年)、徳展「ARKO」(大原美術館、岡山、2015年)、「VOCA展 現代絵画の展望」(上野の森美術館、東京、2013年)にて最年少で大賞を受賞。主なパブリックコレクションに第一生命保険会社、大原美術館などがある。  
http://www.suzukisayaka.com/



Inside and outside - sculpture - (2021年)

安東陽子 Yoko Ando テキスタイルデザイナー・コーディネーター  
東京生まれ。武蔵野美術大学短期大学部グラフィックデザイン科卒業。株式会社 布での勤務を経て、2011年、「安東陽子デザイン」設立。多くの建築家が設計する公共施設や個人住宅などにテキスタイルを提供。近年の主な協働作品として「台中国家歌劇院」(伊東豊雄建築設計事務所)、「みんなの森 きらメディアコスモス」(伊東豊雄建築設計事務所)、西武特急L'view (妹島和世建築設計事務所)「京都市京セラ美術館」(青木淳・西澤義夫設計共同)、「南方熊楠記念館」(シーラカンスタンプアンソシエツィCA)、「白井屋ホテル」(藤本壮介建築設計事務所)、「八戸市美術館」(西澤義夫建築事務所・PRINT AND BUILD・森純平)などがある。シアターカンパニー・アリアに衣装担当として参画。名古屋造形大学、多摩美術大学客員教授。  
著書に「安東陽子」テキスタイル・空間・建築」(LIXIL出版、2015年)。



京都市京セラ美術館ファサードのカーテン(2020年) ©Daici Ando

OPEN FIELD 「OPEN FIELD(オープン・フィールド)」は、什器やオフィス家具から内装デザインを含めた建物のトータルな場づくりの実績がある株式会社オカムラが主催する企画展です。建築史家の五十嵐太郎氏(東北大学教授)をキュレーターに迎え、ショールーム内に気取ったアーティストによるインスタレーションを発表します。また、オカムラのデザイナーとの協働や学生が参加できるイベントを実施し、空間デザインの多面的な考察を実験します。

グラフィック・デザイン: 山田悠太郎(centre Inc.)